

271 号

1 月例会のお知らせ

日 時 : 1 月 28 日 (土) 19:30~21:30
場 所 : 府中町屋倶楽部
内 容 : 武生ルネサンス総会

平成 28 年会計報告 / 平成 29 年事業計画相談

平成 28 年は楽しい笑年会で、幕を閉じました。

皆様のご協力によって、『絵暦』の売れ行きも好調です。さあ今年はどうなことをして楽しみましょうか？

*年会費をお納め下さい。

2,000 円/ 年 (通信を受け取るのみの方は、1,000 円/ 年)

郵便振替 口座番号 00790-3-8194

名義 武生ルネサンス

■寒中お見舞い申し上げます。

「松の内」とは、家の玄関に門松を立てたり、注連縄を飾ったりして、年神様をお迎えし、神様に滞在していただいている間の事。この期間が、以前は、関東では 7 日まで、関西では小正月の 15 日まででしたが、最近は成人式が早くなったこともあり、関西でも 7 日に門松や注連縄を外すところが多くなりました。七草が過ぎますと「松すぎ」となりますので、年賀状も 7 日までは出さなくてはなりませんし、それ以後だと「寒中見舞い」になります。今年も、1 月 5 日が「小寒」で、20 日が「大寒」、2 月 4 日が「立春」にあたります。「立春」の日の早朝、禅寺では入口に「立春大吉」と書いた紙札をはる習慣があります。「小寒」が「寒の入り」で、立春の前日の「節分」までの約 30 日間を「寒の内」と言いますので、今はまさに「寒の内」で、一冬で一番寒い時期です。

小寒から 4 日目を「寒四郎」といい、この日の天候によって、その後の天気や収穫に重大な影響があると信じられていました。また、小寒から 9 日目を「寒九」と呼び、「寒九の雨」という言い方があって、この日に降る雨は豊作の兆しであると考えられてきました。また「寒九の水」は、特に体に良く、薬効もあると言われ、

好んで飲まれるようです。「寒九の水五臓六腑をつらぬけり 浅井民子」

■虫をテーマにした今年の『絵暦』について、世間には、虫愛する姫君の逆の人が結構多いので、その売れ行きを心配しておりましたが、虫には幼い日の思い出が重なる人が多いらしく、皆様から色々と、お褒めの言葉をいただき、ほっとしております。先月に続いて、届きましたメッセージをご紹介します。

「昆虫といい、植物といい、美しく撮られていることに感心します。撮る方のお心そのまま反映しているのだと思います。私は八十歳を越え、体調も少しおかしくなり、何とかしなければと悩み多い日が続いておりましたが、美しい絵暦を見て、例えばススキの穂にしても、枯れたものは枯れたでその姿は美しく、自然であることを思い、自然であることの大切さを今一度感じさせられました。この絵暦を愛用し、自分の生活を見つめ直したいと思います。畑仲はじめ様(福井)」「睦月になんか虫が出てくるのかとちょっと楽しみにしていましたら、美しいハンミョウでした。里山の身近な虫でありながら、華やかな晴れ着を身に着けたようなハンミョウ。道教の別名も、新年の目標を考える睦月にお似合いですね。福井出身の友人と共有したいと思います。岩田伸子様(高松市)」